

2020年4月12日
宮崎中部教会イースター礼拝
牧師 乾元美

ローマの信徒への手紙 6：1～11

詩編 16：7～11

「神に対して生きる」

<苦難の中で>

イースター、おめでとうございます。今日は、イエスさまが十字架の死から、父なる神さまによって復活させられた日を喜び、お祝いするイースターです。

しかしこの状況で、なんだか素直に喜ぶことが出来ない、と感じている方も、多くいらっしゃるかも知れません。

世界中が新型コロナウイルスの感染で、苦しみと困難の中を歩んでいます。経験したことがないような混乱と、恐れです。

特に、神さまに召し集められた群れとして、一つの神の民として、共に歩んでいる私たちは、兄弟姉妹と共に集い、礼拝し、交わることを慰め、励ましとしていますが、今は一人であることが、隣人を守ることになる。交わらないことが、自分と愛する人の命を守ることになる。そんな状況です。これは、なんという試練でしょうか。

また、それぞれ、この状況に伴う生活や人間関係のさまざまな痛み、息苦しさを感じたり、自分や大切な人の体調に神経質になったり、将来のことを不安に思ったりしておられると思います。

そして迎えた先週の受難週、イエスさまの苦しみ、痛み、悩みを思う時に、私たちは今まさに味わっている苦悩を、イエスさまに重ねたのではないのでしょうか。

私たちは、神さまどうしてですか。神さまはどこにおられるのですか。どうして今すぐ来て下さらないのですか。そのように訴えたくになります。今すぐ、苦しみを取り除いて下さい。今すぐ、私たちに平安をもたらして下さい。今すぐ、病を取り除いて下さい。そう祈り叫んでいます。

神さまは、すぐに答えて下さらないかのように思います。そして実はそのように、現実の苦しみや困難そのものより、そのことによって神さまの恵みを見失い、存在を見失い、神さまの愛を疑ってしまいそうになるところにこそ、私たち人間の、まことに耐え難い苦しみがあり、絶望があるのだと思います。

またそこに、神さまから離れてしまい、自分ばかりを見つめ、自己中心的になったり、排他的になってしまう人間の罪が、顕わになるのだらうと思います。

<神さまの御心>

しかし、神さまは私たちの叫びを無視されたのではありません。神さまはご自分の民の叫びを聞き、憐れんで下さるお方です。そして、神さまの御心は、すでにイエスさまによって現わされているのです。

それは、神の御子イエスさまが低く降ってきて下さり、私たちと同じ弱さの只中に身をおかれ、苦しみを背負って、貧しさを味わって、痛みを感じて、共にいて下さる、ということに現わされています。神の御子ご自身が来て下さり、罪人の私たちと、絶望の淵にいる私たちと、共におられるということです。神さまから遠く離れた罪のどん底で、私たちの叫びを、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」との叫びを、イエスさまご自身が叫ばれて、苦しみを受けられて、私たちの傍らで、いや、私たちのさらに下で、そのすべてを受け止めて下さるということです。

私たちは、このお方に、苦しみも、涙も、そして神さまの愛を疑い、御心に背いた罪も、そのために受けるべき裁きの死も、すべてお委ねして良いと言われているのです。いや、もうあなたのすべてを担っていると、言われているのです。

今日の聖書箇所には、イエスさまの十字架の死は、私たちがその死にあずかるためであったと語られています。

私たちの罪による滅びの死を、神さまとの交わりを絶たれる絶望の死を、イエスさまが代わりに死んで下さいました。だからもう、あなたは罪に対して死んだ。もう、あなたは罪の中にはいない。「わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。」そう語られています。

私たち自身は、弱く、罪深く、何の力もないままに、何も出来ないままに、イエスさまの十字架の死によって、もう赦されたと宣言されたのです。罪に支配された体は滅ぼされ、解放されたと仰っていただいたのです。

父なる神さまは、こうして、わたしたちの罪のための死を担って死なれたイエスさまを復活させられました。それがイースターの出来事です。

その理由を、聖書は、「キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。」と語っています。

イエスさまの十字架の死と共に、罪に対して死んだわたしたちが、今度はイエスさまと共に生きるために、わたしたちが新しい命に生きるために、イエスさまは復活させられたのです。十字架の死にあずかって、罪に対して死んだわたしたちは、今度はキリストと共に生きることになるのです。これが、わたしたちに示された神さまの御心です。

<イエスさまに結ばれて>

そして、この神さまの御心を受け止め、恵みに与るのは、洗礼によってである、と今日の聖書には語られています。洗礼を受けることは、イエスさまと結ばれることです。

3節には「それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けた私たちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。」とあります。

「洗礼を受けた」というのは「～に浸された」「～の中に沈めた」という言葉です。つまり、洗礼において、私たちは水の中に浸されるのと同じように、イエス・キリストの中にすっかり浸され、沈められて、一つに結ばれるのです。まるでプールに飛び込んでドボンと水の中に頭まで沈むみたいに、イエスさまの中にすっかり浸され、沈められて、私たちがイエスさまと一つになる。分かちがたく結ばれるのです。そこで、イエスさまの十字架の死にあずかり、イエスさまの復活の命にあずかるのです。

救いにあずかっても、この世の人生において、私たちは今のような感染症に、命や社会を脅かされることがあります。また他にも、病を負ったり、貧しさや、困難や、苦しみ悩みを経験します。人を傷つけることもありますし、傷つけられることもあるでしょう。そして、誰にもいつか必ず、死が訪れます。

もしこれらのことに、一人で立ち向かわなければならぬなら、それは壮絶な孤独であり、恐怖であり、絶望でしかありません。

しかし私たちは、苦しみ悩みを共に担って下さり、罪を代わりに償って下さり、滅びの死に打ち勝ち、死者の中から復活させられたイエスさまが、いつも必ず共にいて下さることを信じる事が出来ます。この世のどんなものも、この方から、私たちを引き離すことは出来ません。

私たちが見る現実においては、苦しみも、悩みもあり、相変わらず罪を犯し、死の力も世にあって未だ圧倒的であるように思われます。しかし、絶対に手を離さないでいて下さるイエスさまに、しっかり固く結ばれているということ。神さまご自身が、いつも一緒にいて下さると知っていること。イエスさまの復活の命にあずかっているということ。この真実に依り頼むところに、まことの平安があるのです。

私たちの本当の平安は、穏やかな生活や、豊かな暮らし、変わらない健康にあるのではありません。それらは確かに与えられているなら感謝すべきことですし、大切なものです。

でも今、まさに私たちが経験しているように、世の見える平安は、いつ奪われ、失われ、消えていくか分からない、一時的な儂いものなのです。

でも、どんな苦しみや、嵐や、困難の中にあつたとしても、その只中で、十字架と復活のイエスさまのもとに逃れ、祈り、すがり、救いを求めることが出来ること。神さまの御許を拠り所として、心の避難場所とすることが出来ること。わたしの苦しみ嘆きを全て担い、罪にも死にも打ち勝って下さった復活のイエスさまが、近くおられる。いやもう離れられないように、イエスさまに浸され、恵みの中に沈められ、この方と一つに結ばれているということ。それこそが、奪われることのない、本当の、平安なのです。

<神に対して生きていると考えなさい>

私たちは、神に対して生きるものとされています。11節には「このように、あなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと考えなさい。」そう考えなさい。そう信じなさい、と言われていました。

自分の思いや努力や心がけで、私たちは神に対して生きることが出来るのではありません。自分の手で掴めるものではありません。神さまがして下さいましたことなのです。そのことに信頼するのです。神さまの恵みを信じ、見つめるのです。イエスさまが、罪から解放して下さい、そのように生きるようにして下さいましたのだと信じるのです。

もはや、私たちは罪の中に生きることは出来ません。十字架と復活の御業を見つめるのなら、この世の現実よりももっと確かで、真実な、神さまの恵みの現実が見えてきます。悲観してしまう状況の中でも、御言葉によって、祈りによって、神さまが与えて下さっている恵みを、まことの平安を、確かな希望を見つめるのです。

イースターの日、私たちを罪から解放し、神に対して生きるものとするために、十字架で死なれたイエスさまが死者の中からよみがえらされました。

この困難の只中にあるからこそ、私たちは、この恵みの現実をしっかりと受け止め、感謝し、まことの平安を与えられたいのです。心を高くあげて、神さまに対して生きる者とされていることを信じたいのです。

この恵みにあずかってこそ、わたしたちは今与えられている日々の現実、世界の苦しみや困難としっかりと向き合い、この困難の中で、神さまを愛し、隣人を愛する歩みを、イエスさまに従う歩みを、祈り求めていくことが出来るのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

今日は、わたしたちを罪から解放するために十字架で死んで下さったイエスさまを復活させて下さったことを喜び祝う、イースターです。

しかし今は、世の混乱によって、私たちの心は騒ぎ立ち、余裕がなくなり、あなたの恵みを見失いそうになります。主よ、どうかわたしたちを憐れんで下さい。すでにイエスさまによって救いの御業が成し遂げられて、あなたに対して生きる者とされていること。キリストと一つに、分かちがたく結ばれ、キリストと共に生きる者、新しい命に生きる者とされていることを、深く心に刻ませて下さい。

あなたの恵みは、離れることがありません。病にあっても、苦しみにあっても、困難にあっても、どうかわたしたちを捕らえていて下さい。そして、共にキリストに結ばれたわたしたちが、互いに祈り、執り成し、愛し合う者となる事が出来ますように。

教会でも集うことが困難になる中で、今、あなたは、わたしたちが御言葉を聞き、あなたを愛し、隣人を愛することを求めておられます。どうか、私たちをそのように導いて下さい。そして世に、あなたと共に在る平安と恵みを、証しすることが出来ますように。

本日は、墓前記念礼拝も中止することとなりました。わたしたちは墓前に集うことが出来なくても、先に召された愛する者たちが、あなたの御手に捕らえられ、罪と死から解放され、キリストと共にあり、復活の確かな希望の内に置かれていることを信じます。

死はわたしたちをこの世で引き離すように思います。しかし、わたしたちのために死んで下さったイエスさまがその死の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた復活の主^に結ばれて、終わりの日に復活にあずかることを信じます。

この確かな希望によって、寂しさを覚える者、悲しみを覚える者に、平安と慰めを与えて下さいますように。

一人一人の信仰をお守りください。いつも、わたしたちは主に在って共に結ばれた一つの群れであることを、覚えさせて下さい。互いに配慮し、祈り、この苦難の時を、イエスさまの信仰によって、忍耐し、乗り越えることが出来るようにして下さい。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン